

ける医師事務作業補助者の進化と真価」等を企画いたしました。医療安全に関しては「医療安全と患者トラブル対応」、医療倫理に関しては「倫理的な組織文化を育むために」、「高齢者の終末期医療を考える」を企画し、さらに働き方改革や単回使用医療機器の再生製造品の問題などを取り上げました。一般口演やポスター発表も合わせ、多くの意見交換や情報収集ができたものと信じております。

閉会式後の市民公開講座は淀川キリスト教病院の柏木哲夫理事長をお願いいたしました。我が国のホスピス緩和医療の第一人者でありながら、とても気さくな人柄であり、終末期医療を市民の方々に抵抗なくお話しいただけると思いお願いいたしました。期待に違わず「ユーモアのある看取り」と題して、学術総会参加者や一般市民の方々に笑いを誘いながらも人生を考えるお話しをしていただきました。

学術総会の期間中は札幌ではよさこいソーラン祭りが開催されておりました。夜の祭り見物に出かけた方もいらっしたかもしれませんが、宿泊先を確保できなかったため参加を諦めたという方がいらしたのもお聞きしました。良かれと計画した開催日時が逆に参加を困難にした方々には本当に申し訳なく思っております。今回の学術総会の最終参加者は3305名でした。さて、学術総会初日の懇親会には、そのよさこいソーラン祭りの常勝チームで昨年も優勝した、当院の地元の「平岸天神」に本番前に登場していただきました。よさこいソーラン祭りの雰囲気をつっぷり味わっていただけたと思います。なお、残念ながら翌日の最終審査では「平岸天神」は準優勝に終わりました。また、アンサンブルグループ奏楽(そら)の演奏をお聞きいただきましたが、最後の演奏の際に当院職員による「大空と大地の中で」の合唱は、当院のチーム力と捉えていただければと思っております。

さて、最後になりますが、宮崎理事長および学会本部の方々には2年間にわたり大変お世話になりました。また学会役員の方々には企画や司会進行等で多くのご援助をいただきました。本当にありがとうございます。最後の最後ですが、一市中病院であり、全国学会の運営など経験のない当院ですが、一致団結して無事大役を果たせたことに対して、開催報告の紙面ではありますがこの場を借りて、当院の全職員に感謝申し上げます。

来年の第21回日本医療マネジメント学会学術総会は、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院の絹川常郎院長を会長として名古屋で開催されます。また名古屋でお会いすることを楽しみにしております。

支部学術集会開催報告

第11回宮城県支部学術集会

学術集会会長：仙台市立病院病院事業管理者 亀山元信

2018年7月14日(土)に、仙台市医師会館を会場として日本医療マネジメント学会第11回宮城県支部学術集会を開催いたしました。テーマは、「チーム力UPによる医療の質の向上」で、参加者数は116名でした。特別講演では(株)ベガルタ仙台代表取締役の西川善久氏に「スポーツマネジメントと組織論」と題した講演をいただいた他、摂食・嚥下リハビリテーションに関するランチョンセミナー1題、入退院支援に関するシンポジウム3題、一般演題14題の発表が行われました。特にシンポジウムでは、「Patient Flow Management」と題して、東北大学病院、大崎市民病院、仙台市立病院、3病院の入退院支援の取り組みについてご紹介いただき、質疑応答の時間で活発な意見交換をしていただきました。最後に、本学術集会の運営にお力添えいただきました関係各所の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。開催報告といたします。

第15回山形県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構山形病院院長 川並透



会場風景

2018年7月21日(土)山形市保健センターにて第15回山形県支部学術集会を開催し県内全域から237名のご参加をいただきました。

今回は「医療環境の質的評価を考える」をメインテーマに掲げ、特別講演として岩手医科大学看護学部特任教授・公益社団法人日本看護協会副会長の秋山智弥先生より「医療の質と看護の役割」についてご講演をいただきました。

また、県内各施設から日頃の取組等に関する一般口演30題、ランチョンセミナー1題の発表のほか、シンポジウムには医療機関をはじめ、障がい者支援施設、調剤薬局、看護協会から5名の先生にシンポジストとしてご参加いただき、各職場・職種それぞれの観点からの発表、その後のディスカッションと会場は大いに盛り上がりました。

最後に本学術集会が盛会のうちに終了できましたこ